

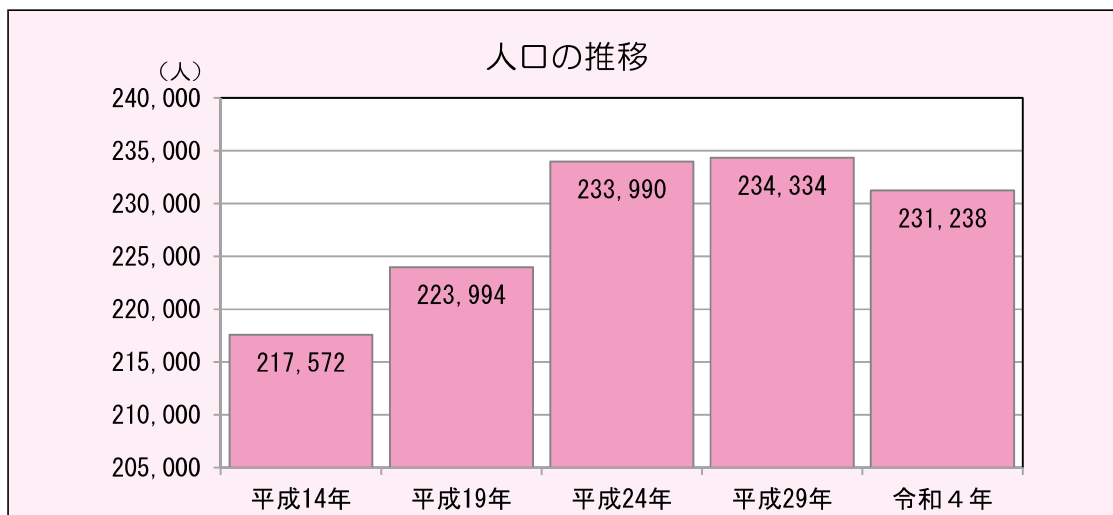
## 第2章 宝塚市の「食」をめぐる現状と第2次計画の評価と課題

### 1 市の概況

#### (1) 人口・世帯の状況

##### ア 人口の推移

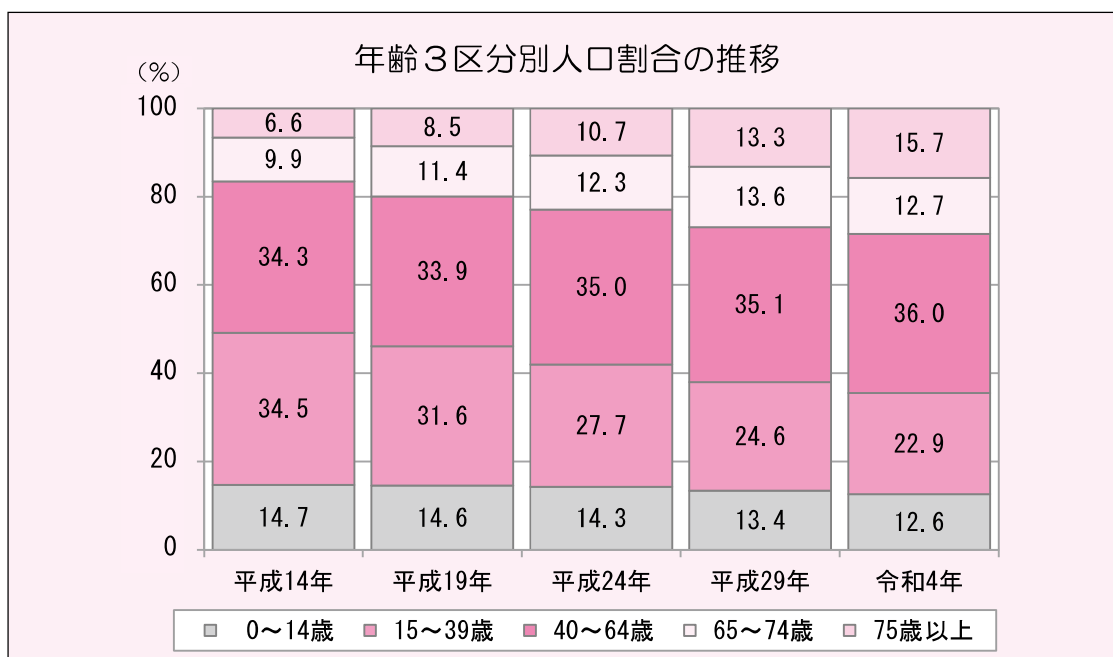
本市の総人口は、令和4年（2022年）8月末時点で231,238人（住民基本台帳人口）となっており、平成29年より減少しています。



資料：住民基本台帳（各年8月末時点）

##### イ 年齢3区分別人口割合の推移

年少人口\*や生産年齢人口\*は減少する一方で、高齢者人口が増加しており、高齢化率\*が高い傾向にあります。



資料：住民基本台帳（各年8月末時点）

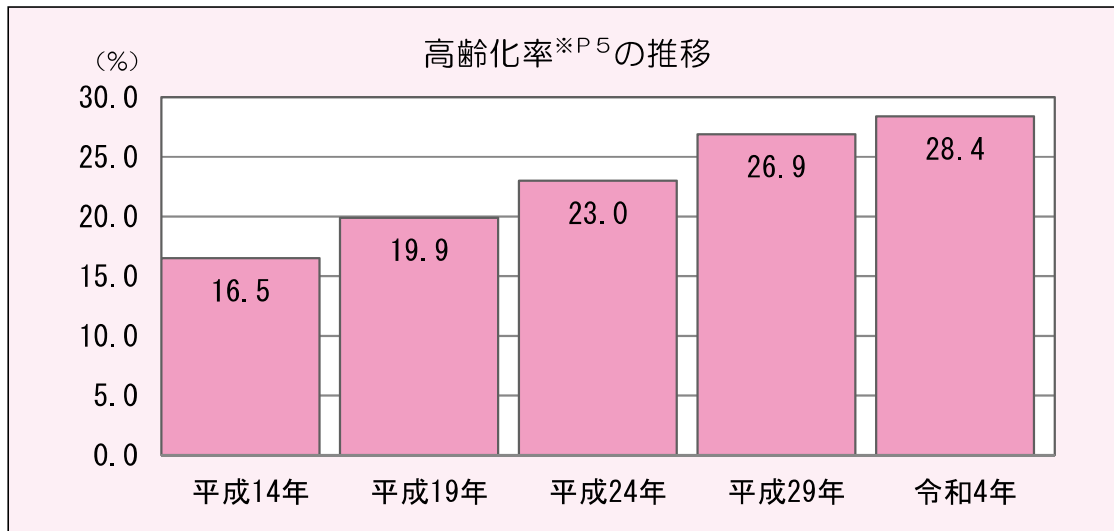
年少人口：年齢別人口のうち、0歳以上15歳未満の人口層。

生産年齢人口：年齢別人口のうち、労働力の中核をなす15歳以上65歳未満の人口層。

高齢化率：総人口に占める65歳以上人口の割合。

### ウ 高齢化率<sup>※P5</sup>の推移

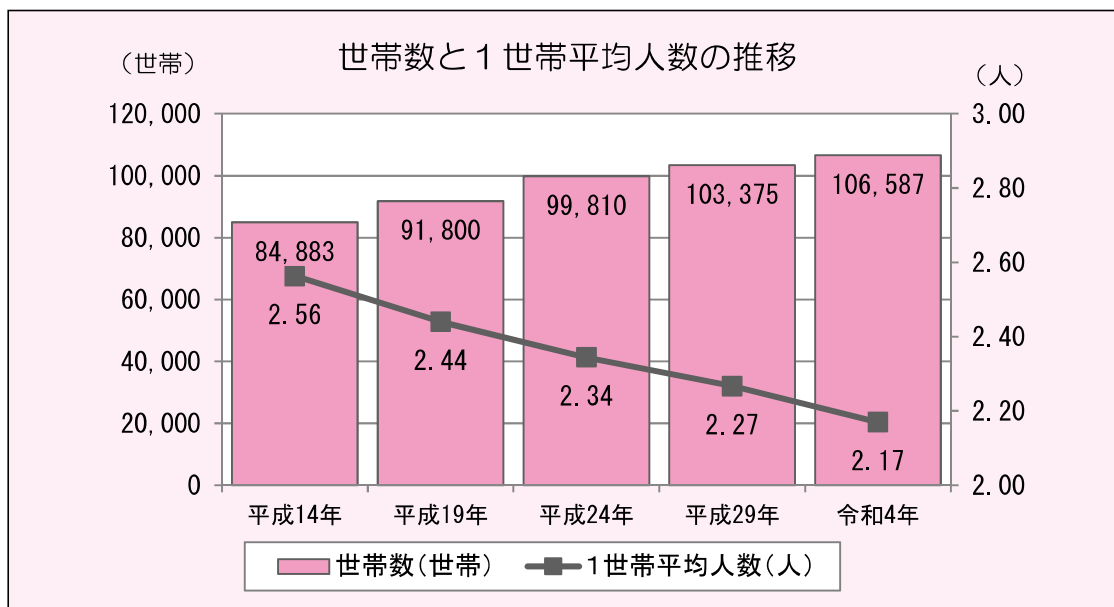
高齢者人口比率は、年々増加傾向にあります。



資料：住民基本台帳（各年8月末時点）

### エ 世帯数と1世帯平均人数の推移

世帯数は年々増加していますが、1世帯平均人数は減少傾向にあります。  
核家族化、ひとり暮らし世帯の増加が進んでいると考えられます。

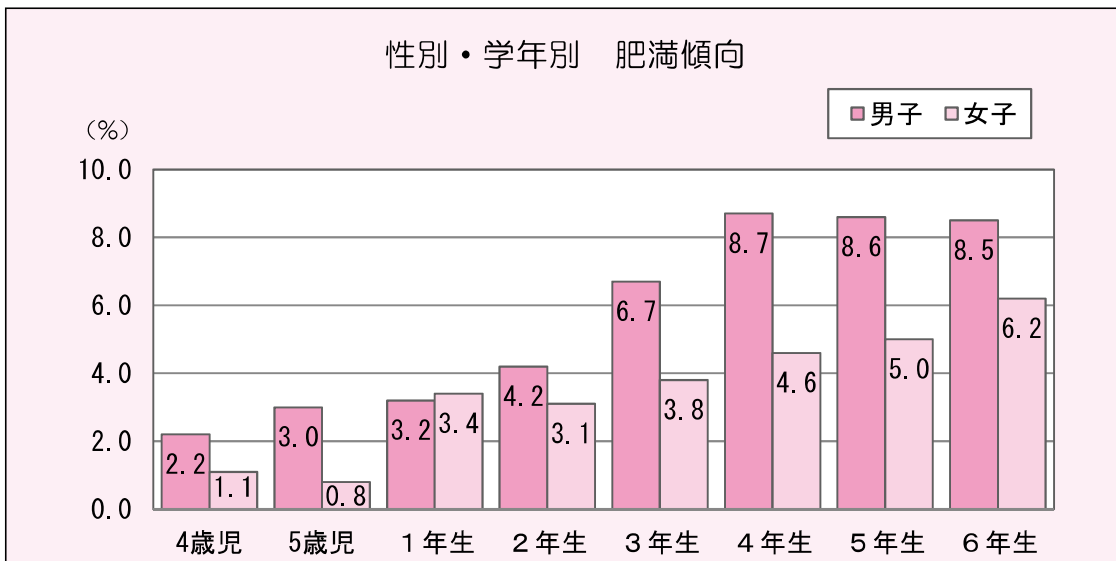


資料：住民基本台帳（各年8月末時点）

(2) 健康の状況

ア 子どもの肥満傾向（\*）状況

男女ともに、高学年になるにつれ増加する傾向にあります。



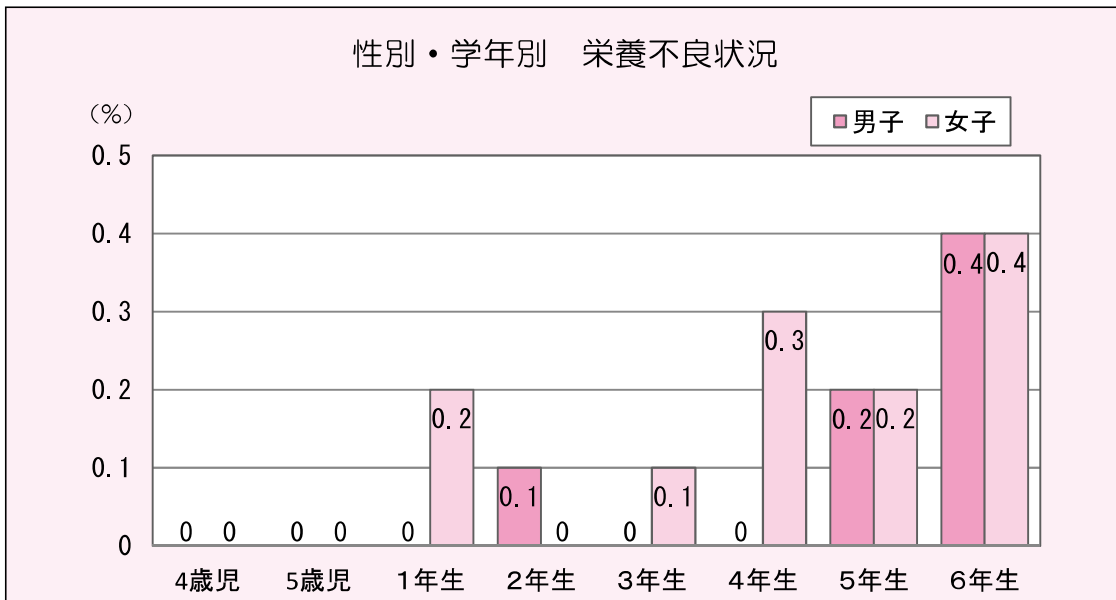
資料：令和3年度（2021年度）

4月～6月に実施された定期健康診断による校種別疾病・体位統計より

（\*）肥満度+20%以上の者、肥満度+20%未満で校医が肥満傾向と判定した者

イ 子どもの栄養不良（\*）状況

どの年齢・学年も、ほとんど栄養不良は見られません。



資料：令和3年度（2021年度）

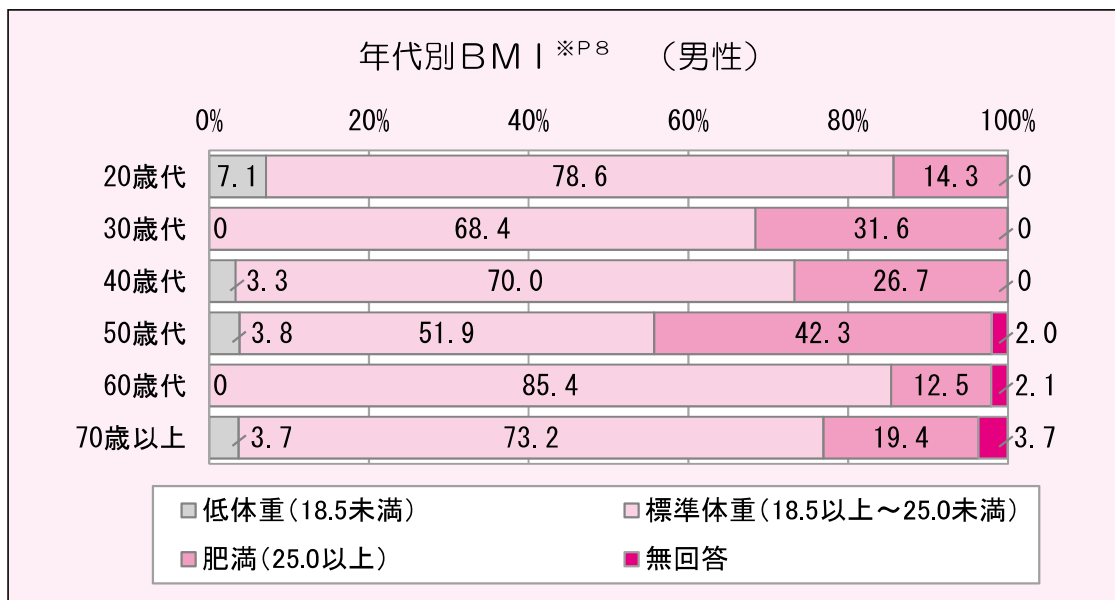
4月～6月に実施された定期健康診断による校種別疾病・体位統計より

（\*）校医が栄養不良と判定した者

ウ 20歳以上の市民におけるBMI※による肥満状況

(ア) 男性

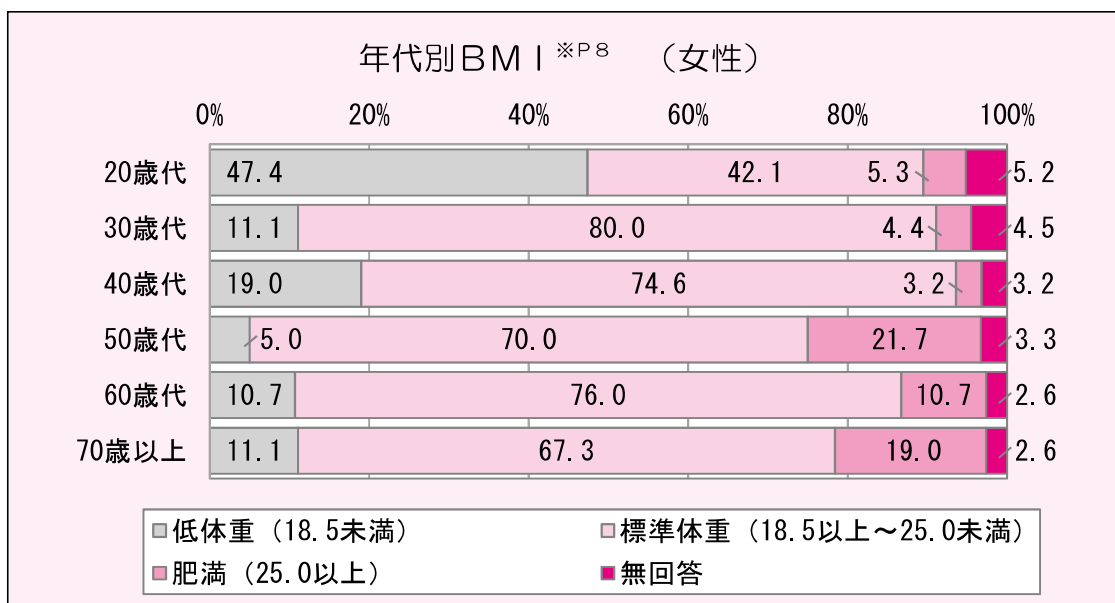
20歳代では他の年齢に比較して低体重(やせ)の割合が高い傾向にあります。また、年齢が増すと肥満の傾向が高くなり、50歳代は特に高い傾向が見られます。70歳以上になると、低体重(やせ)の割合が増えています。



資料：令和4年(2022年)1月に実施したアンケート調査の結果より

(イ) 女性

20歳代では、低体重(やせ)傾向が高く、肥満の割合は低い傾向にあります。年齢が増すにつれて、肥満の割合が高くなる傾向にあります。



資料：令和4年(2022年)1月に実施したアンケート調査の結果より

**BMI**：WHO(世界保健機関)で定めた肥満判定の国際基準で、Body Mass Indexの略  
 体重と身長の関係から算出される、人の肥満度を表す体格指数  
 体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で求める。  
 (低体重：BMI<18.5 肥満：BMI≥25)

## 工 健康寿命

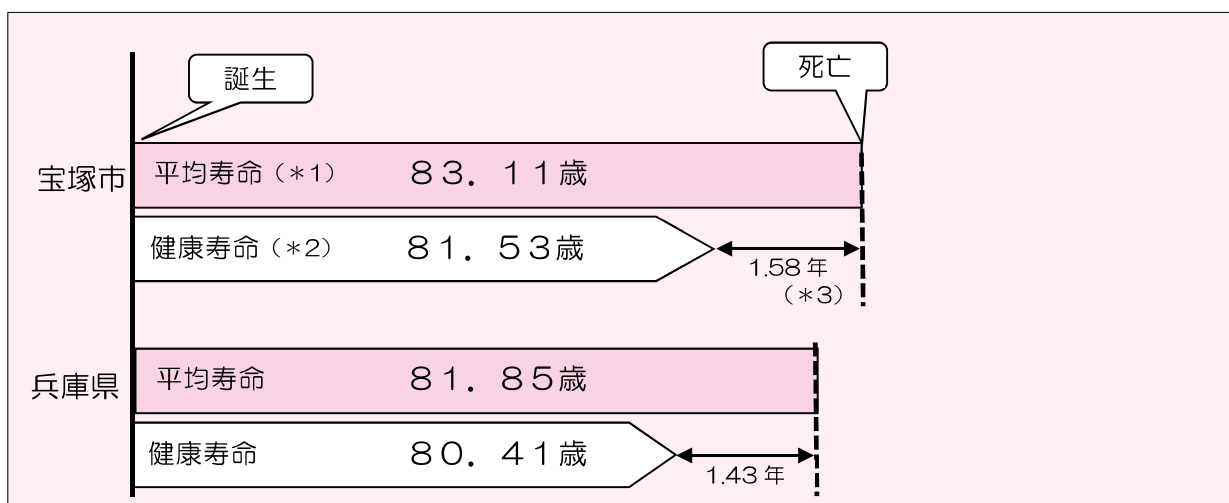
兵庫県が算定した、宝塚市の平均寿命(\*1)は、男性 83.11 歳、女性 88.72 歳であり、男女ともに県より長くなっています。

また、宝塚市の健康寿命(\*2)は、男性 81.53 歳、女性 85.24 歳であり、県下においては、男性は 5 番目、女性は 10 番目の長さとなっています。

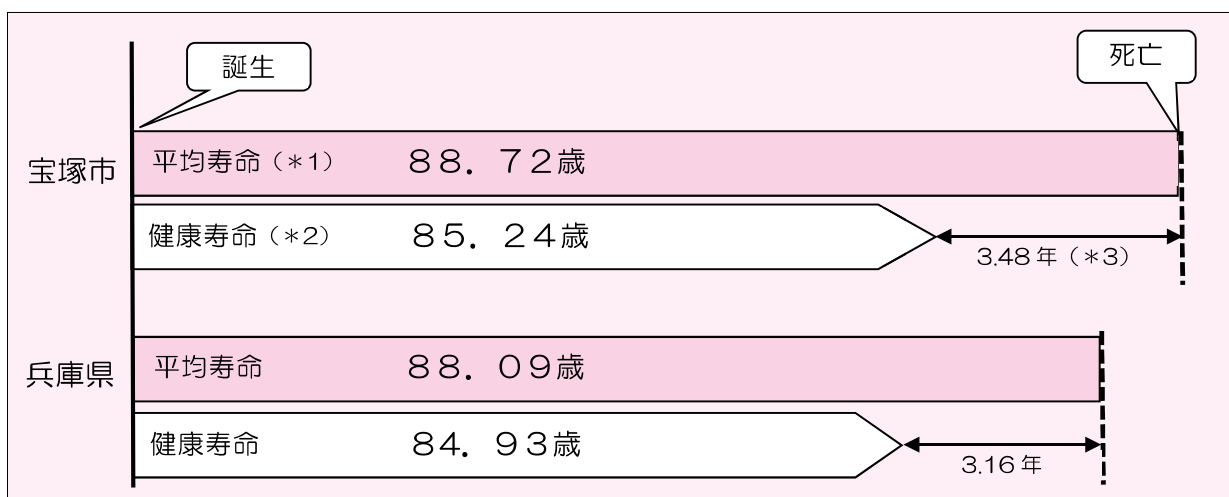
一方、平均寿命から健康寿命を引いた、日常生活動作が自立していない期間は、男性は 1.58 年、女性は 3.48 年であり、ともに兵庫県より長くなっています。

(参考) 国が公表した令和 2 年簡易生命表によると、全国の平均寿命は、男性が 81.64 歳、女性が 87.74 歳、宝塚市は男女とも全国より長くなっています。

### (ア) 男性



### (イ) 女性



\* 1 0 歳の平均余命

\* 2 健康上の問題で日常生活動作が制限されることなく自立している期間

\* 3 支援や介護が必要な期間 (平均寿命と健康寿命の差)

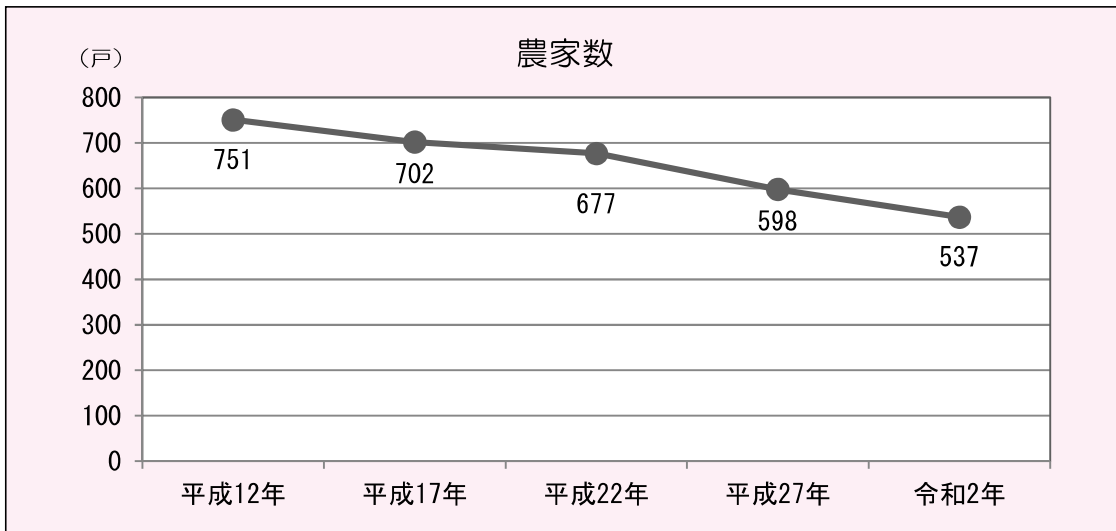
資料：兵庫県における健康寿命の算定結果「令和 2 年健康寿命」(令和 4 年 10 月末公表)

健康寿命及び支援や介護が必要な期間(平均寿命と健康寿命の差)は、小数点以下第 3 位を四捨五入しているため、(ア)男性 兵庫県の健康寿命と支援や介護が必要な期間の合計は平均寿命と一致しません。

### (3) 農業の状況

#### ア 農家数の状況

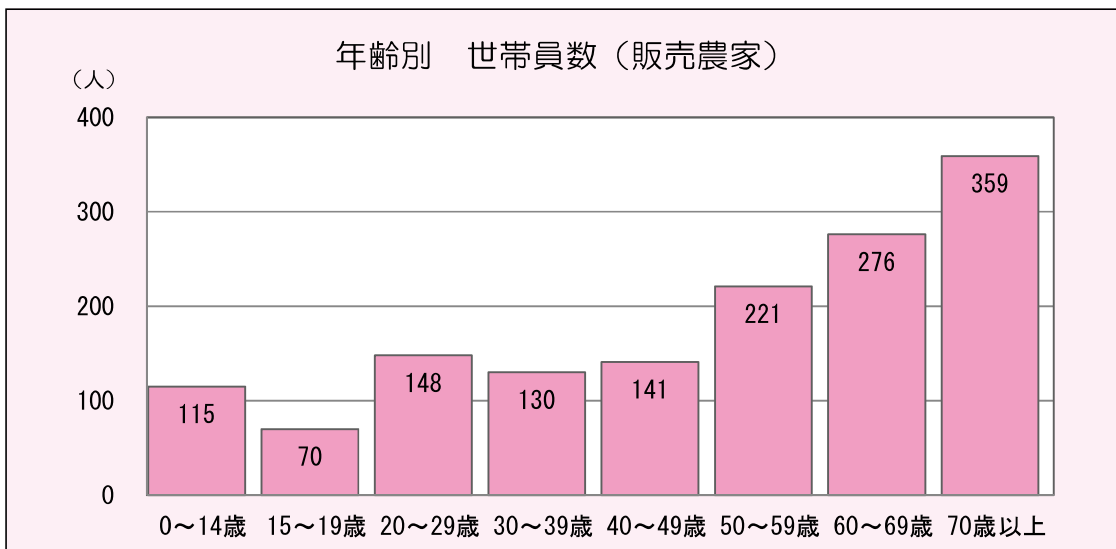
農家数は年々減少傾向にあります。



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

#### イ 年齢別世帯員数（販売農家）の状況

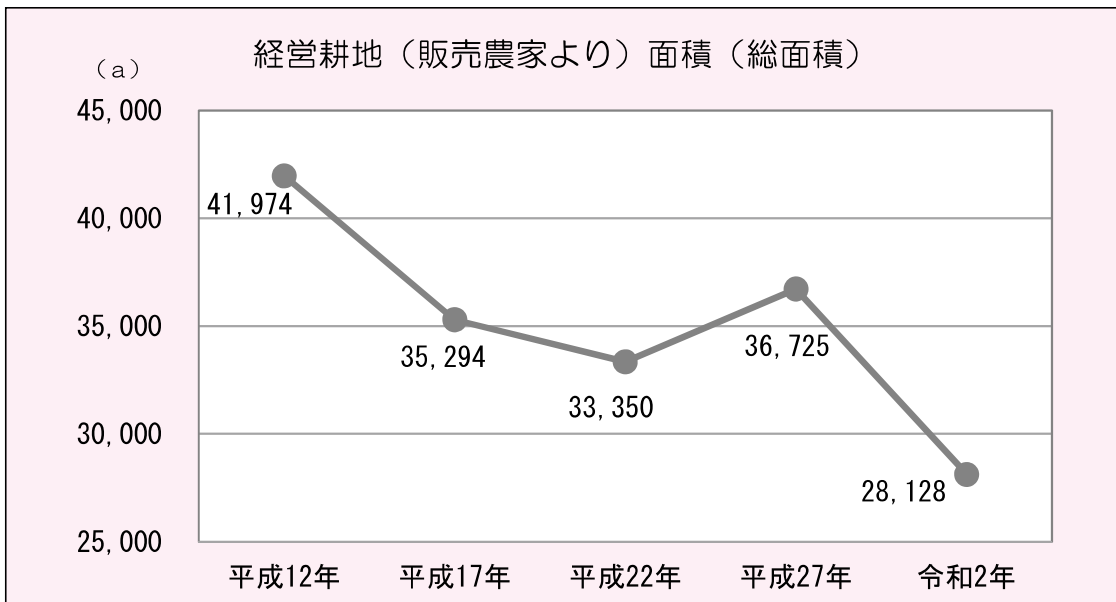
年齢別世帯員数の状況を見ると、70歳以上の年齢層が、他の年齢層に比べて最も多い傾向にあります。



資料：第69次兵庫農林水産統計年報（平成27年2月1日時点）

ウ 経営耕地面積（総面積）の状況

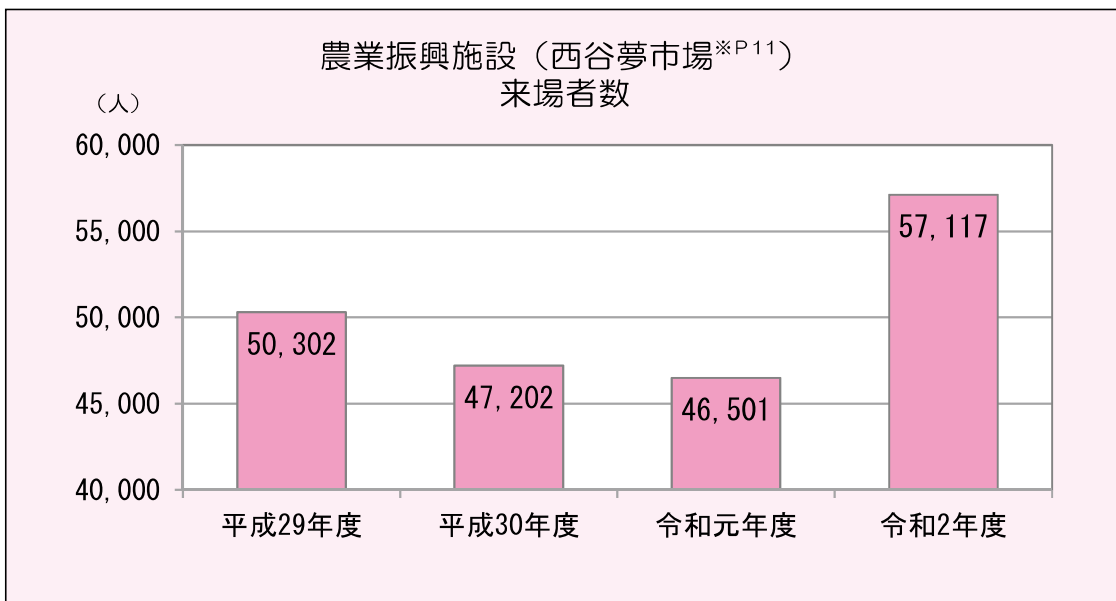
経営耕地面積の総面積の状況は、全体的に減少傾向となっています。



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」

エ 農業振興施設（農産物直売所「西谷夢市場<sup>\*</sup>」）年度別来場者数

天候不良等の影響もあり、来場者数は、年々減少傾向にありましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止による「巣ごもり需要」によって、令和元年度までの3年間と比べると来場者が増加したと考えます。



資料：農政課調べ

**西谷夢市場（農業振興施設）**：農産物等を通じて都市と農村の交流を促進するとともに、農業の振興と地域の活性化を図るために開設された。宝塚ねぎ、黒大豆枝豆等をはじめとする市内の旬の特産野菜や新鮮な農産物、加工品を多数取り揃えている。

## 2 第2次計画の評価と課題

### (1) 第2次計画の概要

#### ア 基本理念

北部地域等の豊かな自然を活かし、大人も子どもも様々な経験を通じて「食に関する知識」と「食を選択する力」を習得することにより、市民とともに「食と自然の恵み」を大切にする、元気な宝塚を目指す。

#### イ 計画の指針

- ① 子どもの頃から増やしていこう「食」とのふれあい  
～毎日の「食」が豊かな心と身体を育てます～
- ② 伝えていこう！食生活の知恵や経験  
～まずは大人が肝心！子どもたちの見本です！～
- ③ 「食」で守ろう・・・自然の恵み

#### ウ 6つの施策

- 1 家庭における食育の推進
- 2 保育所（園）・学校園<sup>※P1</sup>における食育の推進
- 3 地域における食育の推進と食文化の継承
- 4 事業者における食育の推進
- 5 安全・安心な食の推進
- 6 環境を意識した食生活の推進



(2) 指標の達成状況（第2次計画）

第2次計画で設定した15項目15指標の目標値について、第2次計画での取組や令和4年（2022年）1月に実施した、第3次たからづか食育推進計画策定のためのアンケート調査の結果をもとに達成度を評価しました。

目標値の達成状況は、下記の評価区分で評価  
【評価区分】

◎	現状値が目標を達成している指標
○	現状値が目標に向かって改善している指標
△	現状が変化していない指標（±1ポイント未満）
×	現状が改善しなかった指標

	項目	指標	対象	策定時 H27 年度	現状 R3 年度	目標値 R4 年度	評価
①	食育に関心を持とう	食育に関心を持つ人の割合	20歳以上	62.3%	58.5%	69%	×
②	朝食を食べよう	朝食を欠食する人の割合	3～5歳児	3.5%	6.5%	3%	×
			小学5年生	3.4%	10.4%	3%	×
			中学3年生	7.8%	19.2%	7%	×
			20～39歳	28.5%	31.0%	26%	×
③	1日3食規則正しく食べよう	1日3食規則正しく食べている人の割合	20～39歳	63.8%	46.4%	70%	×
④	家庭で「食」を話題にしよう	家庭で「食」（食べ物）について会話をする人の割合	3～5歳児	56.3%	62.6%	62%	◎
			小学5年生	65.6%	67.1%	72%	○
			中学3年生	56.5%	61.2%	62%	○
⑤	食事のお手伝いをしよう	食事の準備や後片付けなどの、食事のお手伝いをする人の割合	3～5歳児	31.3%	27.0%	34%	×
			小学5年生	38.9%	33.5%	43%	×
			中学3年生	28.7%	26.2%	32%	×
⑥	家族そろって朝食を食べよう	朝食を家族そろって食べる人の割合	3～5歳児	22.6%	23.8%	25%	○
			小学5年生	21.8%	18.8%	24%	×
			中学3年生	14.4%	14.0%	16%	△
⑦	家族そろって夕食を食べよう	夕食を家族そろって食べる人の割合	3～5歳児	23.6%	27.6%	26%	◎
			小学5年生	25.7%	25.4%	28%	△
			中学3年生	25.4%	14.8%	28%	×
⑧	家族や友人と楽しく食事をしよう	家族や友人と食卓を囲む機会のある人の割合	65歳以上	68.6%	57.2%	76%	×
⑨	食事のあいさつをしよう	食事のあいさつ（いただきます・ごちそうさま）ができる人の割合	3～5歳児	82.6%	76.3%	91%	×
			小学5年生	78.5%	69.4%	86%	×
			中学3年生	71.3%	64.5%	78%	×

	項 目	目 標 指 標	対 象	策定時 H27 年度	現状 R3 年度	目標値 R4 年度	評価
⑩	行事食を家族で作ったり食べたりしよう	一緒に行事にちなんだ伝統料理（行事食）を作ったり食べたりする人の割合 (注釈1)	3～5 歳児	42.9%	43.3%	47%	△
			小学 5 年生	38.9%	52.6%	43%	◎
			中学 3 年生	40.2%	48.6%	44%	◎
⑪	食事のマナーを身につけよう	食に関するマナーを知っている人の割合	3～5 歳児	36.7%	47.0%	40%	◎
			小学 5 年生	51.7%	64.7%	57%	◎
			中学 3 年生	53.7%	66.7%	59%	◎
			20 歳以上	40.0%	57.2%	60%	○
⑫	農業振興施設「西谷夢市場 <sup>*P11</sup> 」へ行ってみよう	農業振興施設（農産物直売所）「西谷夢市場 <sup>*P11</sup> 」の来場者数（年間）	市民等	60,438人 (H26年度実績)	50,242人	65,000人	×
⑬	地産地消 <sup>*</sup> を意識しよう	旬のものや、国産品、地元（兵庫県内）で生産された食材を優先して購入する人の割合	20 歳以上	80.4%	75.4%	88%	×
⑭	食の安全に関心をもとう	食の安全に関心のある人の割合	20 歳以上	85.1%	75.6%	94%	×
⑮	食品表示を意識しよう	食品を購入する際、食品表示をほとんど見ていない人の割合	20 歳以上	8.8%	11.7%	8%	×

達成状況（まとめ）

評価区分	指標数	割合
◎	7	21%
○	4	12%
△	3	9%
×	19	58%
合計	33	100%

（注釈 1）令和 3 年度の数値は、「一緒に行事にちなんだ伝統料理（行事食）を食べる人の割合」を調査

（出典） 策定時の値：平成 27 年（2015 年）5 月 7 日～5 月 18 日 食育に関するアンケート調査より

（「西谷夢市場<sup>\*P11</sup>」の来場者数を除く）

現状値：令和 4 年（2022 年）1 月 7 日～1 月 18 日

第 3 次たからづか食育推進計画策定のためのアンケート調査より

（「西谷夢市場<sup>\*P11</sup>」の来場者数を除く）

地産地消：地域生産、地域消費の略で、地域でとれた生産物を地域で消費すること。

### (3) 各施策の評価と課題

施策1 家庭における食育の推進

施策2 保育所(園)・学校園<sup>※P1</sup>における食育の推進

(指標 ①～⑮)

家庭や保育所(園)・学校園<sup>※P1</sup>で家族や友人等と食事でコミュニケーションをとることは、食育の原点であり、食に関するマナーや感謝の気持ちを持つ等、望ましい食習慣を身に付けるための大切な時間や場です。

これまで、食育フェアをはじめ食育講座や個別相談の開催、保育所(園)・学校園<sup>※P1</sup>での給食やお弁当の時間、菜園活動、農業体験等を通じて、食育への理解と関心を深めてもらう取組を行ってきました。

しかし、食事のあいさつ(指標⑨)や食事のお手伝いをする人の割合(指標⑤)が策定時(平成27年度)より減少しています。

また、20歳以上では、朝食を食べる習慣(指標②)や3食規則正しく食べる人の割合(指標③)が、策定時(平成27年度)より減少しており、健全な食生活の実践や行動の定着には至っていません。

今後も、家庭や保育所(園)・学校園<sup>※P1</sup>、地域等が連携し、様々な方法で啓発に取り組む必要があります。

特に若い世代(20～39歳)を中心に、朝食を習慣化するための啓発が必要です。

施策3 地域における食育の推進と食文化の継承

(指標 ①・③～⑬)

四季折々の食材の豊かさを実感し、食材の持つ旨みを生かす調理の仕方や盛り付け、おもてなしの心など、日本の伝統的な食文化を理解し継承することは、大切なことです。

これまで、行事食をテーマにした料理教室やパネル展示による食文化の継承への取組を行ってきており、家庭で行事食を食べている割合は、策定時(平成27年度)と比べ増加しています。(指標⑩)

今後は、行事食の由来や作り方を学ぶ機会の提供や次世代へ伝えていく大切さを理解してもらう取組が必要です。

施策4 事業者における食育の推進

(指標 ①・⑩・⑫～⑮)

日本の食料自給率は年々低下しており、この10年はカロリーベースで40%を下回る水準となっています。

学校給食では宝塚産農産物を提供したり、小中学校では生産者をゲストティーチャーに迎え、子どもたちに農業の授業や農業体験を実施するなど、地産地消<sup>※P14</sup>に関する取組を行ってきました。

「西谷夢市場<sup>※P11</sup>」の来場者数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止による「巣ごもり需要」によって増加したと考えるものの、策定時（平成 26 年度実績）に比べ、減少しています。（指標 ⑫）

市街地で宝塚産農産物のPRを行う西谷朝市（「たからの市」内）や「宝塚朝市」などを開催してきました。

今後も、農業への理解や関心を高め、実践につながるよう、農に触れ、農を知る体験を増やす取組が必要です。

#### 施策5 安全・安心な食の推進

（指標 ①・⑫～⑮）

様々な食材が多様な形で加工・提供されるようになり、単に食品の選び方や保管の方法等について知識を持つだけでなく、実際に食品を手に取り表示を確認し正しく食品を選ぶことが大切です。

これまで、出前講座の開催、啓発チラシの配布等で情報提供・啓発を行ってきましたが、食の安全に関心を持つ割合（指標 ⑬）や食品を購入する際に商品表示を見る割合（指標 ⑮）は、いずれも策定時（平成 27 年度）より減少しています。

今後も、出前講座等を開催し、正しい情報を提供し啓発する必要があります。

#### 施策6 環境を意識した食生活の推進

（指標 ①・⑫～⑮）

地産地消<sup>※P14</sup>は、運搬に係るエネルギーを削減し、CO<sub>2</sub>の発生を抑え、地球温暖化防止に寄与する環境に優しい取組です。

これまで、小学生向けの環境学習、たからづか ECO 講座等の開催による自然環境を保全する取組や、廃棄物の少ないエコクッキングの体験、地球環境に優しい「地産地消<sup>※P14</sup>」「旬産旬消<sup>※</sup>」についての情報提供・啓発を行ってきましたが、地元で生産された食材を優先して購入する市民の割合（指標 ⑮）は、策定時（平成 27 年度）より減少しています。

施策 1 から施策 6 までの推進は、持続可能な社会の実現に向けた礎になる取組です。

農に触れ農を知る機会の提供や地産地消<sup>※P14</sup>への意識、食品ロス<sup>※P1</sup>の削減等の行動すべてが、SDGs（持続可能な開発目標）<sup>※P1</sup>の達成につながることから、今後も普及啓発に努める必要があります。

旬産旬消：旬の生産物を旬である出盛りの時期に消費すること。